

キリスト教保育

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

礼拝のお話
鈴木しのぶ

巻頭言

明日に向かって種を蒔こう

小友 聡

論説

保育における食への興味・関心を

高める環境が人間を育てる

野口孝則



2023 JAN.

1

神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、
男と女とに創造された。

口語訳聖書・創世記1章27

聖書は先ず「はじめに神」がおられ、「天と地」万物を「創造された」と宣言します。そして創造の最後にそのクライマックスとして人間を創造されたことが記されています。これら二か所に出てくる「創造する（バーラー）」という言葉は、素材や原料なしに造ることを意味し、神の創造活動に限って用いられています。人間が何かを用いてもものを造る場合は「造る（アーサー）」という言葉が別に使われています（創世記8章6）。

さて、人類の始祖の創造で興味深いことは、「神のかたち」に創造されたということです。これはいったいどういう事でしょうか。神は霊ですから形（form）は無いので、神が私たちと似た顔かたちをしているというわけではありません。「かたち」はimage、likenessと英訳されている様に、人間は神の性質（見えざるかたち）を宿すものとしてつくられたという意味なのです。愛なる神は人間を神の愛の対象者としてつくり、愛し愛される存在とされました。また、神は「創造された」と繰り返して記されている様に、人間を創造的（クリエイティブ）な存在としてつくられました。

創造的であることは私たち保育者にとっても大切なことではないでしょうか。『魅力ある保育者たち』（著・高杉自子）には、「子どもと保育者の共に練りあげる創造的活動」の見出しの中で、「子どもの自己目的と保育者側の願いが一致するようにしたい。…こんなふう幼児と保育者が知恵を出し合う白熱戦をくり広げていくのです。知恵の出し合いによって、活動が練りあがっていきます。常に新しきものの創造です。保育とはこうした子どもと保育者の協業による、なまなましい、みずみずしい創造活動です。それができる力量を保育者は問われているのではないのでしょうか。」と述べられています。

神の「かたち」につくられた人間は、創造主の性質にあずかって創造的に生きると同時に、創造主の意図に従って生きることが望まれます。創世記1章28節の趣旨に従って生きることが期待されているのです。いくら創意工夫が大切と言っても、人間は自分のエゴの為、自然環境を破壊することは許されません。私たちにとって自然は、何よりも「神からのあずかりもの」であることを忘れてはならないと思います。

吉井秀夫・執筆 当時・鹿屋キリスト教会牧師 信愛幼稚園園長
1987年『キリスト教保育』誌2月号より

キリスト教保育

第646号1月号



年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉

明日に向かって種を蒔こう 小友 聡

4

〈論説〉

保育における食への興味・関心を

高める環境が人間を育てる 野口孝則

6

〈小論〉人と動物の絆Ⅱ 潮上英一郎

18

図書紹介 岡本恵子 高木伸江

21

聖書に聞く・お話 篠田真紀子

22

〔カリキュラム〕

1月 月のねがい表

25

心にとめて 富田恵美子

26

実践報告 Y M C A長町保育園

28

実践からの学び 大久保めぐみ

35

心にとめて 大漣知子

36

実践報告 いづみ幼稚園

38

実践からの学び 清水真理

44

私たちの園では 高梨美紀

45

〈連載〉キリスト教保育Q&A

塩谷直也

46

〈連載〉領域「表現」とは

尾根秀樹

48

絵本のとびら 村井恵

52

礼拝のお話 鈴木しのぶ

53

目福口福耳福 今村愛喜

63

風 塚本潤一

64

連盟だより 編集子 佐渡いずみ

65

「神さまを感じるお話」アンケート報告

66



表紙絵
カット

田中楨子
長野祥三
中畝治子
金井ユリ

長縄えいこ
松成真理子